

トラック 1

ふむ。どうやら余は運がいいらしい。
煩わしい封印から抜け出してすぐ、
お前のような若い人間の雄を見つけられるとはな。

……ああ、先に言っておくがこれ以上逃げようとしても無駄だ。
ただの人間でしかないお前が、
クイーンサキュバスである余から逃れる可能性など微塵もないのだからな。

不満があるなら、目覚めたばかりの余と遭遇してしまった自分の不運を呪うといい。

……ほう。手も足も震えているではないか。
どうやら、サキュバスに出会うのは初めてと見える。
しかも相手がクイーンサキュバスとは、お前は本当に運がないな。

だが安心するといい。
他の魔物どもとは違い、サキュバスが人間に与えるのは苦痛ではなく快楽だ。

お前はただ余の尻尾に肉棒を吸われ、
途方もない快楽を味わいながら精を献上していればいい。

さて、余もそろそろ我慢の限界だ。
お前のような若い雄を食うのは数百年ぶりだからな。腹が減ってたまらぬ。

それにお前ももう肉棒が痛いほど勃起しているのではないか？
サキュバスは全身から常に発情を促すフェロモンを撒き散らしているからな。
お前のようなただの人間が耐えられるはずがあるまい。

……ふむ。ズボンをこんなに膨らませて、鼻息も荒い。
やはり限界といった様子だな。

初めて味わうサキュバスの体はどうだ？
人間の女とは比べ物にならないほど美しく、
劣情を誘ってくる格好をしているだろう？

この胸も手も足も尻も腹もすべて、
お前たち人間から精を搾り取るためにあるのだ。
もちろん、この尻尾もな。

ほら、尻尾の先端が花のように開いているだろう？
この中身は膣に似た構造になっていてな。
肉棒を根元まで咥えて、お前の金玉の中にある精子を根こそぎ吸り上げるのだ。

大抵の人間はこれで少し吸ってやっただけで射精し、
意識を失うのだが……さてお前はどうか。

さっそく試してみるとしよう。

……ほう。皮が剥けて、しっかりと勃起できているな。
クイーンサキュバスが食べるに相応しい立派な肉棒だ。
さて、食事の時間だ。
余の腹を満たせるだけの精液を、しっかりと献上してみせよ。いいな？

こら、暴れるな。
……まったく、お前たちはいつもこうだ。

まだ余の尻尾に咥えられただけだというのに、
肩も腰を震わせながら女のような声を漏らして……。

まあいい。それならば、一気に搾り取ってやろう。

どうだ。口でも膣でもなく、尻尾で肉棒をしゃぶられるのは気持ちがいいだろう？
人間では絶対に味わうことのできない、サキュバスにしか与えられない快樂だ。
遠慮せず味わうといい。

……ふふっ。
余の尻尾の中で、お主の肉棒がびくびく震えているのが外からでも分かるぞ。
さあ、このまま諦めて射精するといい。
お前は余の、クイーンサキュバスヴィーナのエサなのだからな。

んっ……おい、勝手に何をしておる。

いきなり余の胸を揉もうとするなど、無礼が過ぎるぞ人間。
……まあ、いい。今の余は少し気分がいいからな。
これくらいの無礼は多めに見てやるとしよう。

それより、もう限界だろう？
クイーンサキュバスのフェロモンを
こんな距離で浴びながら肉棒を吸われているのだ。

お前のようなただの人間が耐えられるわけあるまい。
そのまま余の尻尾に精液をぶちまけてしまえ。

さあ出せ。射精しろ。
金玉の中身もすべて捧げろ。
全部出せ。吐き出せ。
イけ、イけ、イけ。

……出せ。

どうだ。サキュバスの尻尾に精液を吐き出すのは、
気絶してしまいそうなほど心地いいだろう？
そのまま金玉の中に残っている精子も全て吐き出してしまえ。

安心しろ。たとえお前が気絶したところで余の尻尾が搾精を止めることはない。
精子が無くなり、命が尽きるまで射精を続けるがいい。
お前は、余の腹を満たすためのエサなのだからな。

さあ、続きだ。余が満足するまで射精してもらうぞ、人間。
……ふふっ。

トラック 2

おい…起きろ…おい。

はあ……。

まったく。いつまで女王を待たせるつもりだ。

まだ余が満腹になっていないというのに、気絶したうえに精も尽きるとは。

……なんだ、その不安そうな目は。

ああ、もしやまだ精液を搾られると思っていたのか？

ふふっ。安心するがいい。

お前の命が果てるまで搾り取る気はもうない。

お前の精液の味が気に入ったからな。

お前はこれより、女王である余のペットとなるのだ。

言っておくが拒否権はないぞ。これはもう決定事項だ。

お前のことを毎日たっぷり甘やかしてやるから、

今のうちに精子をたくさん作っておくといい。

……まったく。そんなに怖がらなくてもよいではないか。

クイーンサキュバスである余が、

お前をたっぷり甘やかしてやるというのに何が不満なのだ。

まあよい。ペットを躰け、飼い主が誰かを教え込むのも飼い主である余の役目だ。

これから共に暮らす中でたっぷり躰けてやろうではないか。

さてと。こんな場所にもう用はない。さっさと出るとしよう。

まだ余の尻尾で搾り取られた余韻で体が動かぬのだろうか？

このまま余の体に抱きついておくがいい。

もちろん、余の胸を好きなだけ揉んでもよいからな。

では、これからよろしく頼むぞ。余のペットよ。

……ふふっ。

トラック 3

調子はどうだ。今日も余が精液を搾りに来てやったぞ。

……ふふっ。まったく、サキュバス相手にそんなに切なそうな顔をするでない。

昨日もたっぷりお前の精を味わったというのに、また腹が空いてしまうではないか。

どうせあれから金玉の疼きも肉棒の勃起も収まらず、

どれだけ自分で処理しても追いつかないぐらい性欲が溜まっているのだろう？

なに、嘆くことはない。ペットの面倒を見るのは飼い主である余の役目だ。

この館で余と二人きりで過ごしフェロモンを浴び続けているおかげで、

お前の金玉もペニスもすっかりサキュバス好みに出来上がっているはずだからな。

さあ、服を脱いでこっちに来い。

今日は余の膝の上で処理してやろう。

もちろんお前には美味しい精液をたっぷり出してもらおうぞ。

んっ、どうだ。余の太ももクッションの座り心地は…？

『柔らかくて良い』？

ふふっ、当然だ。

サキュバスの女王の体はどこであっても雄を虜にしてしまう魔性の体だからな。

それにしても、昨日あんなに搾ってやったというのにまたこんなに勃起させおって。

お前は本当に世話が焼きたくなるいいペットだな。

それにペニスも金玉も随分と大きくなって、

ますます余のペットに相応しくなっている。

偉いぞ。褒めてやる。

さあ、お前の頭より大きな女王の乳クッションに好きなだけ寄りかかるといい。

こうやって後ろから抱きしめてスケベな言葉をたっぷり囁きながら、

お前のペニス……いや、チンポを甘やかしてやろう。

さあ、触るぞ。

お前のガチガチに勃起したチンポ、飼い主の手で包んでやる。

ほら、ぎゅ〜っと、な。

くっ…ふふっ。

まだ両手で包んだだけだというのに、そんなに反応しておって。

成長したのは大きさだけでなく感度も…か。

いいぞ。そうやって可愛らしく悶える姿、もっと余に見せておくれ。

サキュバスにとって人間の雄が快楽で悶える姿は大好物だからな。

余の乳と太ももでリラックスしている間に、

お前のチンポに溜まった精液、すべて吐き出させてやる。

まずは亀頭から根本までをゆっくり往復して、お前の興奮をもっと高めてやろう。

ほら。し〜こ、し〜こ、しこしこしこ。

女王のすべすべ指マンコでチンポマッサージ。

上下に指を動かして、お前のチンポにもっと余のフェロモン染み込ませてやる。

し〜こ、し〜こ、しこしこしこ。しこしこ、し〜こ、し〜こ。

どうだ？耳元でシコシコ囁かれながらのチンポマッサージ♡

いつも世話してくれる飼い主様の指で

チンポ気持ちよくされるのとっても興奮するだろう？

だが、まだだ。この程度で射精なんてさせてやるものか。

ほら。もっとシコシコしてやる。

しこしこ、し〜こし〜こ、しこしこしこっ。

しこっ、しこっ。しこしこしこ……し〜こ、し〜こ、しこしこしこっ。

亀頭もカリの段差も、雄の弱いところだけをじっくりねっとり擦って、

チンポに快感溜め込んでいけ。

ああ、声も我慢しなくていいぞ。

好きなだけ喘いで、腰震わせて、チンポびくつかせるといい。

さっきも言っただろう？

サキュバスにとってお前のような可愛い雄が悶える姿は大好物なのだ。

だから余の腕の中で、たっぷり喘ぎ、悶えてくれ♡

もちろん射精はお預けだな。

余が許可を出すまで射精は我慢……余のペットならちゃんと従えるだろう？

ほら、もっとシコシコ続けてやる。

ついでに、こっちからも囁いてやろう。

左右の耳からスケベな言葉流し込んで、余のペットに相応しい脳にしてやる。

余とチンポのことしか考えられないように……な♡

さあ、もっといっぱい扱いてやるからどんどん気持ちよくなってくれ。

飼い主に、ペットの可愛い姿もっと見せるのだ……♡

し〜こしこ、し〜こしこ。

女王の指でチンポしこしこ……ああ、気持ちいいなあ？

そうだ、目を閉じてみろ。

余とのまぐわいを想像しながら余のシコシコを味わってみるといい。

……ふふっ。本当に想像したのか。

お前のチンポ、また一段と勃起してしまっているぞ。

それにトロトロの先走りまで溢れてきた。

ああ、なんて分かりやすいチンポなんだろうな、お前は。

いいぞ。そのまま余とのまぐわい…

セックス…交尾を想像しながら余に身を委ねるのだ。

金玉の中身をグツグツ煮込んで、とびっきり濃い精液を作りながら、

何もせずにチンポ気持ちよくなっていく贅沢……たっぷり味わうといい♡

どうだ？シコシコ激しくしてやったぞ。

お前のチンポから溢れた先走りを塗り広げて、

余のフェロモンと混ざらせるように激しい手コキ♡

ぐちゅぐちゅってスケベな音をたてながら

チンポひたすら扱かれるのたまらないだろう？

……ふふっ。もう限界か。

口から「はあ、はあ」って荒い息吐きながら腰を勝手にヘコヘコさせおって。

ああ、まったく。もっと扱いて、快楽で甘やかしてやりたくなるではないか。
お前は本当にサキュバス好みのいい雄だ。
このまま最後まで扱いてやるから、余にたっぷりと精液を献上するのだぞ。よいな？

はぁ…はぁ…♡ほら、もっとチンポに意識集中させろ。
余の指と声で興奮膨らませて、精液どんどん濃くしていけ。

ああ、またチンポ膨らんだな♡

金玉もせりあがって、精液どんどんあがってきているんだろう？
ふふっ。もっと余が甘やかしてやるから、精液たっぷり作るんだぞ♡
余の指を本物のマンコだと勘違いしながら、全力射精の準備するんだ♡

ほら、いいぞ♡その調子だ♡
余の指に…お前のことが大好きな飼い主の指に先走りまみれのチンポ擦りつけろ。

余に扱かれながら射精するイメージ、ちゃんとできているか♡
金玉でぐつぐつ煮込んだ精液、余がぜんぶ受け止めてやるからな♡

余の指を孕ませるぐらいとびっきり勢いのある射精、
飼い主にしっかり見せつけてみよ♡

ああ、出るか？イッてしまうか？

チンポびくびくしてきたな。もうイきたいの分かるぞ♡
クイーンサキュバスの指マンコで精処理射精♡

飼い主の腕に抱かれながら、
おっぱいと太ももソファに全身寄りかかりながらたっぷり射精♡

情けないくらい喘いで、悶えながら…余のしている前で射精してよいからな♡

ほら、イケ♡
だせ♡精液だせ♡余の大好きなお前の精液、ぜんぶ出せ♡
両手でチンポ包んでやるから、飼い主の指に射精しろ♡
ほら出せっ♡……イケっ♡

ああ、たくさん射精しておって……んっ♡まだ出ているな。

余の手の中でチンポがビクビクしているのが分かるぞ♡

……まったく。

そんなに脱力しきっているのにこれほどたくさん射精しておって。ふふっ。

お前は本当にいいペットだな。

飼い主の言うことを聞ける、いい子だ。偉い、偉いぞ♡

ご褒美にまだまだ扱いてやるから、遠慮なく精液を献上するといい……ふふっ。

トラック 4

まったく、冒険者とは昔も今も面倒な奴らだ。
余の館にいきなりやって来たかと思えば、
剣や魔法を遠慮なく振りかざそうとしおって。

……ん？冒険者はどうなったのか？
ふふっ。そんなこと、ペットであるお前が気にする必要はない。

それよりお前には余の気分転換に付き合ってもらうぞ。
なあに、いつもどおりお前を好きなだけ甘やかすだけだ。
そのために余のベッドまでお前を連れてきたのだからな。
分かったら、さっさと始めるぞ。

ああ……本当にお前は可愛いな。
この前まで余に怯えてばかりだった人間が、
今は余とのまぐわいを想像して股間を膨らませている…ふふっ。

仕方あるまい。
クイーンサキュバスである余の体を味わえるのはお前だけしかいないからな。

お前の手から溢れるほど大きな胸や尻も、
この細い腰も、柔らかい唇も、手も足も、視線も声も。
ぜんぶ、お前を甘やかすためだけに使ってやる。

余の極上の体でお前に覆いかぶさって、全身で甘やかしてやるのだ。
……想像したら、もっと勃起強くなってしまったか？

いいぞ、お前もすっかり余のペットとしての振る舞いが板についてきたではないか。
さあ、自分の手で服を脱いで飼い主にペニスを見せてみるがいい。

ふふっ。相変わらずガチガチに勃起させて…
本当にサキュバスの食欲をそそるペニスだ。

ああ、いや。チンポ、と呼んだ方がお前は興奮するのだったな。
それじゃあ今日も……お前のチンポ、

余の体でたっぷり甘やかしてやるから、覚悟しておくといい♡

あむ、じゅふる、ちゅぱ。ちゅっ、ちゅっ……ちゅ〜っ♡

ちゅぱ、んちゅ、ちゅふる、ちゅぱ♡

じゅるる、ちゅふる、あむ、んっちゅ、ちゅっ♡

ぷはあ……いきなりのキス、驚いたか？

チンポ撫でながら、たっぷり唾液を飲ませてやるからな。

お前も余の乳や太ももの感触を味わいながら、

舌を絡めて、唾液を飲んで、もっとチンポ硬くさせるといい。

ほら、続きだ……あむっ。

んっ、ちゅぱ、じゅるるるっ♡

あむ、んっちゅ、れろ、じゅふる、ちゅぱ、れろれろれろお……ちゅっちゅ♡

ちゅぱ、ん〜ちゅっ♡ちゅ♡ちゅっちゅ♡

じゅるる、じゅぷ、れろ、れろえろお…ちゅ、んっちゅ、ぢゅ〜っ♡ちゅぱ♡

ああ、お前のキス顔は本当に可愛いな。

チンポももっと熱くなって、興奮しているのが丸わかりだ。

はあ…ふう…んっ♡

その顔を見れば分かる。早くチンポ気持ちよくなりたいのだろう？

余も、そろそろ我慢の限界でな♡

さっさとチンポを余のマンコで食べてやろう。

んっ……分かるか？

ガチガチに勃起したお前のチンポ、余のマンコの入口に当たっているぞ♡

クイーンサキュバスに覆いかぶされながらチンポ甘やかされる快感、

たっぷり味わわせてやるからな。

余のマンコの中に金玉の中身すべて吐き出すのだぞ♡

それじゃあ、んっ……いれる、ぞっ♡

あっ、んっ……ん、くう……はあっ♡はあ、はあ……んっ♡

んっ♡はぁ…はぁ…♡あぁ、ようやく全部入ったな♡
どうだ？お前のチンポ、余がすべて食べてしまったぞ。
このままクイーンサキュバスのマンコで
徹底的に締めつけて、ヒダでしゃぶって、甘やかしてやる……んっ♡

はぁ…はぁ…んっ、くう♡
あっ、んんっ……はぁ、あっ、んん♡んっ、はぁ…はぁっ♡

どうだ？余のマンコは？
いつもは手や口でばかり性処理しているから、んっ♡
クイーンサキュバスのマンコの味にはまだ慣れないだろう？
んっ♡はぁ♡

こうやって、腰動かすたび……
膣ヒダ絡みつきながらチンポ締めつけて、とっても気持ちいいはずだ♡

人間相手では絶対に味わえない、余しか与えられない快樂。
たっぷり味わうといい♡

んっ、はぁ♡あっ、んっ……いい、ぞっ♡んっ♡
お前のチンポ、ナカで擦れて、いい……あっ、はぁ♡
んっ、く、ふう…んっ、あぁ♡

はぁ、はぁ…ん、おっ♡おくに、とどいてっ♡あ、んんっ♡
あぁ、いいぞ♡そのまま、もっとチンポ気持ちよくさせてやるっ♡
あ、あぁっ♡はぁ……あんっ♡

まったく、お前は……ん、あっ♡またチンポ、膨らませおって♡
余のマンコ、もうお前のチンポでいっぱいだぞ♡

それに…んっ♡
そんなに気持ちよさそうな蕩け顔晒しておきながら、
余の胸を鷺掴みにしておって♡
ふふっ、チンポと揃って欲しがりめ♡

だが、いい。余の胸を好きなだけ揉みながら、もっとチンポ硬くしておけ♡

その方が余もお前も、もっと気持ちいいし、甘やかし甲斐があるというものだ♡
ほら、もっと激しくするぞ♡

んっ、はあ、あっ♡あ、ああっ♡
んっ、くう…はあ、んっ♡はあ…はあ…ん、んっ♡
あんっ、ん、いい……はあ♡

あ、ああっ♡これ、すきだっ♡おまえのチンポ、こすれて……んっ♡
ひゃ、あっ♡ん……あっ、はあ……んひ、いっ♡あ、ああっ…はあ、あんっ♡んはあ♡ん
っ、くう…ああ♡

どう、だっ♡余の本気ピストン…んっ、はあ♡
気持ちいいなら、んっ♡気持ちいいと、言えっ♡
『ヴィーナ様のマンコ気持ちいいです』と言ってみよ……♡

そうか、そうかっ♡気持ちいいか♡
ならもっとしてやろう♡ほら、舌を出せ♡
上の口でも下の口でも、お前を徹底的に甘やかしてやるからな♡

ん、じゅるるっ♡ちゅば、あむ♡
んっちゅ、ちゅっちゅ♡れろ、んじゅる、ちゅば♡
あむ、んっちゅ、れろ、じゅるるるっ♡

あっ、くう……はあ、んっ♡んっ♡
もっと、もっとキスするぞ♡余に精液も唾液も全部捧げるのだ♡
はあ、あっ、くう♡んっ、んあっ♡

あむ、んちゅる、ちゅば♡んじゅる、じゅるるるっ♡
ちゅば、んっちゅ、ちゅ～～っ♡

ちゅ、れろ、ちゅっちゅ、ぶちゅる、ん、ちゅば…ふはあ♡
じゅるる、ちゅ、れろ、んべえ……んっちゅ、ちゅば♡
あむっ、んっちゅ、じゅるるるるるっ♡

んっ♡んんっ♡あっ、はあ♡んっ、あ、くっ……んっ、ふう♡
あ、あんっ♡んお、くっ……はあ、んっ、ああっ♡はあ……はあ……♡

んっ、もうイきそうなんだな？

ああ、分かるぞ♡お前のチンポが、余の中で可愛いぐらいに震えているからな♡

ふふっ。いいぞ、そのまま出してしまえ♡

お前の絶頂する時の顔、ぜんぶ見ていてやろう♡

だから余に…飼い主にたっぷり精液を献上しろ♡いいな？

あむ、んっちゅ、じゅるる♡

ちゅぱ♡ん、ちゅる、あむ、じゅぞぞぞっ♡

ほら、イケ♡射精しろ♡余に甘やかされながらイケっ♡

余のマンコに、クイーンサキュバスの子宮にお前の精液献上しろ♡

いいな、これは命令だっ♡

さあ、出せ♡イケ、イケっ♡

んっ、んんっっ♡くう♡はあっ、はあ……んっ♡

ふふ、ふふふっ。お前は、また勢いよく射精したな…？

チンポが余のマンコの一番奥にぴったりくっついて、

たくさん精液を注ぎこんできたぞ♡

余の子宮にたっぷり精を献上できるとは、

お前は本当に甘やかし甲斐のある良いペットだ。

偉いぞ…褒めてやろう♡

だが、余はまだ満足しておらん。

お前もそうであろう？余のナカでチンポをまだまだ硬くさせおって。

そういうわけで、だ。もうしばらく甘やかしてやるから、覚悟しておくといい。

お前は余の…ヴィーナのペットなのだから、

ちゃんと言うことが聞けるだろう？……ふふっ♡

トラック 5

おい…おい、起きろ。もう朝だぞ。
お前の可愛い寝顔もいいが、飼い主を放置するのはどうかと思うぞ。
なあ、起きろ。

ようやく目が覚めたか。遅いぞ……ちゅっ♡
ふふっ、悪い。ずいぶん可愛い顔で眠っていたからつい、な？
それにしても、いい夢でも見ていたのか？

寝ている最中も余の胸を揉んだり、
太ももに足を絡ませてきたりと随分甘えてきていたが…まあ、よい。
昨日はたっぷりとお前を甘やかしてやったからな。
だが……これはどういうことだろうなあ？

お前のチンポ、あれだけ甘やかして搾り取ってやったというのに、
もうこんなに硬く勃起させて……ふふっ。

クイーンサキュバスのフェロモンを浴びて、立派な朝勃ちだな♡
まだまだ余に甘やかしてもらいたいと、そういうことなのだろう？

ふふ…。
チンポ硬くしながら頷きおって、本当に可愛いやつめ♡
今日は他のサキュバスたちの様子を見に行こうかと思っていたが……。
うむ、予定変更だ。

今日もお前のことを一日中甘やかしてやる。
ベッドでも廊下でも風呂でもどこでも、一日中たっぷりと…な♡

どうだ、嬉しいだろう？
クイーンサキュバスである余にここまでされるのはお前だけなのだからな。

さてと、さっそくお前のチンポから朝勃ち精液を献上してもらおうとしようか。
余が満足するだけの濃くて大量の精液を頼むぞ。
よいな？……ふふっ。良い返事だ。期待しているぞ。

……ちゅっ♡